

技術情報 vol.1

小豆

発行年月日 2023.05.26
JA 新はこだて厚沢部営農センター
檜山農業改良普及センター
檜山郡江差町字柳崎町 55 番
TEL 0139-53-6141
FAX 0139-53-6143

■ は種と施肥

- ・ は種は、安定した収量・品質を確保するため、6月上旬～中旬を目安に行いましょう。
- ・ 10a当り株数の目安は右表の通りです。なお、地力が高く生育が旺盛となりやすいほ場では、倒伏と収量性を考慮して決定しましょう。

<10a当り株数の目安(2粒まき)>

畝間(cm)	株間(cm)	株数(株/10a)
66	18	8,418
66	20	7,576
72	16	8,681
72	18	7,716
75	16	8,333
75	18	7,407

■ 種子消毒

※ まめぞう(根粒菌)を使用する場合、種子消毒剤の塗沫後に処理する。

■ 施肥

- ・ 窒素量:3～4kg/10a (地力により調整する)
(例) S644 または BBS643 50～70kg/10a
- ・ 初期生育の確保が困難なほ場では、リン酸資材を施用してください。
(例) 重焼燐2号 20kg/10a

■ 除草剤

- ※1)使用時期の目安は、①は種後→は種後2日～5日後、②出芽直前→出芽の前日、③出芽揃→は種粒数の80%の出芽を認めた日、とする(くみあい農作物病害虫・雑草防除ガイドより)。
- ※2)「ビンサイド乳剤」は、「ゲザガード 50」と「クロロ IPC」の混合剤である。
「ゲザガード50」「クロロIPC」を使用した場合、「ビンサイド乳剤」は使用できない。
- ※3)「パワーガイザー液剤」使用上の注意点
- ・ 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸しないように散布する。
 - ・ 高薬量又は初生葉期以降の散布は、発芽障害・黄化・枯死等の薬害が生じるおそれがあるので、使用時期を厳守する。有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので使用しない。